

廢寮化攻撃許さず 寮防衛・反管理闘争前進

大阪大

「西の筑波大学」といわれるのは学生への管理・弾圧の厳しい大阪大学では、現在、露骨な寮つぶし。この春以来、一方的な入寮募集の中止、寮自治会の抗議が続けられ、これに抗議する学友には機動隊の導入など警察権力と一体となつた弾圧が強行されており、四月三日には、七

洋大学では、六月末の学長団交をひかえ、クラス・自らも秘密裡に移転工事に着手しようと策動してきた。そして、去る三月十八日、当局は文部省に対し秘かに定員増や新学科増設など一連の手続きを申請し、六月三十日には、筑波大学方式の全般反対闘争が進められ、六月九日に行わられた女子ホーリーサークル連絡会議(女学生連)主催の学長会見(学友二〇〇名が結集)で、ついに学長団交の確約がかち取られたのである。

この成果は、先立つ五月九日から二二日まで、約

二〇〇名以上の学友を結集して

開催された「五月祭」の取組みの中で準備されたものである。とりわけ五月二一日に望月優子議員(参院文教委員)を招いて行われた講演会「筑波大学法國强行採決と東洋大移転問題」は、学友に移転問題の重大性を認識させ、大学

が三〇〇名の学友を結集し

て成功した。

学生の反撃で閉寮計画がスムーズに進まなくなつた現在、大学当局は、「名簿書き在(理学部教授)、藤井音(基礎工学部教授)ら、反省・警察庁と協議」し、自動教官に攻撃を集中するとからう学生は「パクリ作戦」いう形で進められている。しかし、阪大の学友は決してこのよつた攻撃に甘んじてはいない。すでにクラスマスの闘いは教養部全体に波及しつつあり、大衆的な抗議、追及行動が粘り強く進められている。

行動によって、「閉寮計画には反対する」という確認がかかる。五月十八日には、「閉寮計画粉碎、不

なく書き並べている。

これに対し、不当逮捕された七名の学友の勾留理由

が開示公判を皮切りに、反撃

が當逮捕糾弾」全學決起集会

開示公判を皮切りに、反撃

が當逮捕糾弾」全學決起集会

開示公判を皮切りに、反

